



AYF プラクティス・シリーズ セッション 1

日程 2020年12月12日 (土)
主催 愛知県ヨット連盟
開催地 愛知県蒲郡市海陽町1-7 豊田自動織機 海陽ヨットハーバー

帆走指示書

「NP」艇からの抗議の根拠とはならない。これは規則60.1(a)を変更している。
「SP」レース委員会から審問なしに、またはプロテスト委員会の審問により、スタンダード・ペナルティが課せられる。

1. 規則

本レガッタには、『セーリング競技規則2017-2020』(以下、規則という)に定義された規則が適用される。

2. 競技者への通告

競技者への通告は、レガッタ・オフィス東側に設置された公式掲示板に掲示する。

3. 帆走指示書の変更

帆走指示書(以下、指示という)の変更は、当日の9:00までに掲示する。

4. 陸上で発する信号

- 4.1 陸上で発する信号は、レガッタ・オフィス南側の信号柱に掲揚する。
- 4.2 陸上で回答旗が展開された場合、規則レース信号『回答旗』中の「1分」を「30分以降」に置き換える。

5. レース日程

- 5.1 レース日程
 - 09:00-09:30 大会受付・登録
 - 09:40 ブリーフィング (開会式は行わない)
 - 10:40 最初のクラスの第1レース予告信号
14:30を越えて予告信号が発せられることはない。
 - 16:00 (予定) 成績公表 (閉会式は行わない)
- 5.2 FJの参加艇数が5艇に満たない場合、420とFJは同時スタートとする。
引き続きスタートするクラスの予告信号は、前のクラスのスタート信号後、適宜発せられる。
- 5.3 最初のレース終了後、引き続き次のレースを実施する。
- 5.4 各クラスとも4レースを予定している。
大会が成立するには2レースを完了させることが必要である。
- 5.5 1つのレースまたは一連のレースが間もなく始まることを艇に注意を喚起するために、予告信号を発する少なくとも5分以前に、音響1声とともにオレンジ色の「スタートライン旗」掲揚する。

6. クラス旗

- 420 白地に水色字の420の形象
- FJ 白地に水色字のFJの形象 ※ 420と同時スタートの場合、420のクラス旗を用いる。
- レーザーラジアル 緑色地に赤色のレーザーの形象

7. レース・エリア

添付図Aにレース・エリアの位置を示す。

8. コース

- 8.1 添付図Bの見取り図は、通過するマークの順序、それぞれのマークをどちら側に見て通過するかを含むコースを示す。
- 8.2 予告信号以前に、レース委員会信号艇に最初のレグのおおよそのコンパス方位を掲示する。

9. マーク

- 9.1 マーク1. 4p. 4sは、黒色数字入りのオレンジ色円筒形ブイとする。
- 9.2 スタート・マークは、スターボードの端にあるレース委員会信号艇と、ポートの端にあるレース委員会艇とする。
- 9.3 フィニッシュ・マークは、ポートの端にあるレース委員会信号艇と、スターボードの端にあるレース委員会艇とする。
- 9.4 指示11.1に規定する新しいマークは、黒色数字入りの蛍光黄色円筒形ブイとする。

10. スタート

- 10.1 レースは規則26を用いて、予告信号をスタート信号の5分前とし、スタートさせる。
- 10.2 スタート・ラインは、スターボードの端にあるスタート・マーク上にオレンジ色のスタートライン旗を掲揚しているポールと、ポートの端にあるスタート・マーク上にオレンジ色のスタート・ライン旗を掲揚しているポールの間とする。
- 10.3 「NP」 予告信号が発せられていない艇は、他のレースのスタート手順の間、スタート・ラインの概ね100m以内のスタート・エリアを回避しなければならない。
- 10.4 スタート信号後4分より後にスタートする艇は、審問なしに『スタートしなかった』と記録される。
これは規則A4を変更している。

11. コースの次のレグの変更

コースの次のレグを変更するために、レース委員会は、新しいマークを設置し(またはフィニッシュ・ラインを移動し)、実行できれば直ぐに元のマークを除去する。

12. タイム・リミットとレースのターゲット・タイム

- 12.1 タイム・リミットとレースのターゲット・タイムは、次のとおりとする。

	レースの タイム・リミット	マーク1の タイム・リミット	フィニッシュ ウインドウ	レースの ターゲット・タイム
420	60分	25分	10分	40分
FJ	60分	25分	10分	40分
レーザーラジアル	70分	25分	10分	45分

- 12.2 マーク1のタイム・リミット内に1艇もマーク1を通過しなかった場合には、レースを中止する。
ターゲット・タイムどおりとならなくても、救済の根拠とはならない。これは規則62.1(a)を変更している。
- 12.3 規則30.3、規則30.4が適用された場合、その規則に違反しなかった最初の艇がコースを帆走してフィニッシュした後に定められるフィニッシュ・ウインドウ内にフィニッシュしない艇は、審問なしに「フィニッシュしなかった」と記録される。
これは、規則35、A4、A5を変更している。

13. フィニッシュ

フィニッシュ・ラインは、フィニッシュ・マーク上にオレンジ色旗を掲揚しているポールの間とする。

14. 抗議と救済の要求

- 14.1 抗議書は、レガッタ・オフィスにて入手できる。
抗議および救済または審問再開の要求は、適切な締切時間内にレガッタ・オフィスに提出されなければならない。
- 14.2 抗議締切時刻はその日の最終レースに最終艇がフィニッシュした後、またはレース委員会が、本日これ以上レースを行わないという信号を発した後、どちらか遅い方から60分とする。
- 14.3 審問の当事者であるか、または証人として名前があげられている競技者に、審問のことを知らせるため、抗議締切時刻後20分以内に通告を掲示する。審問はプロテスト・ルームにて、概ね受付順に始められる。
- 14.4 レース委員会またはプロテスト委員会による抗議の通告を、規則61.1(b)に基づき伝えるために掲示する。

15. 得点

3レース以下しか完了しなかった場合、艇のシリーズの得点はレース得点の合計とする。

4レース完了した場合、艇のシリーズ得点は最も悪い得点を除外したレース得点の合計とする。

16. 安全規定

- 16.1 出艇申告、帰着申告およびリタイヤ申告は、Google フォームを活用した、web 方式を採用する。
操作方法及び使用するQRコードは大会HPを参照すること。
- 16.2 「NP」「SP」各艇は、各日とも08:00から出艇前までに、Google フォームを活用して出艇申告を行わなければならない。
- 16.3 「NP」「SP」帰着した艇は、帰着後速やかに、Google フォームを活用して帰着申告を行わなければならない。
その日の最終レース後の帰着申告締切時刻は、抗議締切時刻である。
- 16.4 レース委員会が危険と判断した場合、艇体放棄を含む強制救助を行う場合がある。
強制救助に対しては、艇からの救済要求の根拠とはならない。これは規則62.1(a)を変更している。
- 16.5 マスト・トップに着脱可能な浮力体を取り付けても良い。
- 16.6 「NP」「SP」レースからリタイヤする艇は、可能ならばレース委員会艇、またはプロテスト委員会艇に伝えなければならない。
リタイヤした艇は、速やかにGoogle フォームを活用してリタイヤ申告を行わなければならない。

17. ごみの処分

ごみは、コーチボートまたは大会運営艇に渡してもよい。

18. 責任の否認

このレガッタの競技者は自分自身の責任で参加する。規則4「レースをすることの決定」参照。

主催団体は、このレガッタの前後、期間中に生じた物理的な損傷または身体障害もしくは死亡によるいかなる責任を負わない。

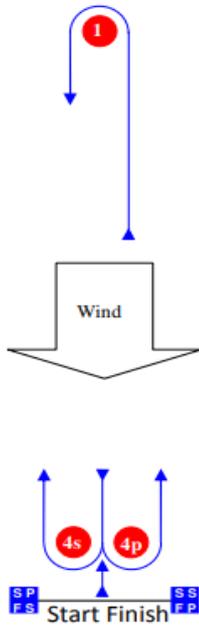
19. その他「DP」「NP」

選手、支援者は、競技役員および施設管理職員の合理的な指示に従わなければならない。

添付図A



添付図B



コース L2
 スタート → M1 → 4p/4s → M1 → フィニッシュ

三谷潮汐表

12月12日 (土)	中潮			
月齢 26.7	満潮		干潮	
日の出 06:48	04:01	15:42	09:51	22:18
日の入 16:42	212cm	219cm	82cm	16cm